

ほっとステイ

子どもたちとの
あたたかい時間

日帰り農村体験「ほっとステイ」。都会の小中高生と農家の方が一緒に一日を過ごす体験プログラムです。2010年に開始して、コロナ禍の前は年間20校以上、生徒数3000名以上の受け入れを行っていました。そんなほっとステイの様子と、受け入れた農家の思いを紹介します。

首都圏の子どもたちの 農村体験プログラム

ほっとステイは、主に首都圏の学校が茅野市の農村を体験する学習プログラムです。北山地区糸萱区の方たちが事務局となって運営しています。2010年に始まって、今年で13年目。コロナ禍前には年間20校以上の受け入れをしていました。コロナ禍である今年もすでに10校以上から申し込みが来ている状況で、多くの子どもたちが茅野市を訪れ、農村体験をしてきました。

農作業体験だけでなく、 多様な体験ができる

6人1組で班を編成し、班ごとに各農家の方のところへ行って、一緒に過ごします。過ごし方は主に農作業体験ですが、それ以外にもその地域

ことがやる気につながっています」と話します。

受け入れ農家の不足

一方で受け入れ農家は高齢化が進み、受け入れ農家の減少が問題となっています。現在、茅野市全域と原村まで範囲を広げているが、受け入れ農家の数から5クラス以上の学校の受け入れは断らざるを得ない状況となっていて、市内の人に活動を知ってもらうことで受け入れ農家となってほしいと考えています。「自家用野菜を作っているだけの方でも、受け入れてみてほしい。都会の子どもたちと触れ合うことで、普段は感じられないあたたかな気持ちになると思います」と湯田坂さんは話しました。

の歴史紹介や周辺散策なども行っています。そして受入農家はさまざまです。自家用野菜だけを作っている高齢者や退職後に多少の出荷を兼ねて野菜や田んぼを作っている方、都会からの移住者で周辺の土地を借りて野菜を作っている方、それに少数ですが専業の農家さんなどです。

やりがいを感じながら 受け入れる農家さんも

受け入れ農家の方の中には、笑顔や目を輝かせている子どもたちを見て、やりがいを感じている方も多いと言います。ほっとステイの事務局である「ほっとステイちの」の代表の湯田坂さんは「ほっとステイにかかわっているスタッフは、活動が地域の活性化や観光産業への寄与、都会の生徒の情操教育など多くの波及効果を感じていると感じています。そういった



ほっとステイ 1日の流れ

受け入れ農家さんによって違いはありますが、ほっとステイの1日の流れの一例です。



バス到着



お茶の間に自己紹介



農作業体験



自然体験/周辺散策

近場の自然体験のほか、尖石縄文考古館の見学など、茅野市のことを知ってもらうような体験をしてもらっています。



帰り/見送り



佐藤 保子さん

ほっとステイの代表の湯田坂さんから土地を借りていたことから、ほっとステイに携わるようになりました。毎年、受け入れをしています。子どもたちに「いい匂いだよね」「素敵なロケーションだね」と言ってもらったり、お手紙で丁寧にお礼をもらえたりすると、とてもうれしくなります。そういうところから、しばらくは続けていこうと思っています。

また受け入れた子どもたちに色々なことを伝えていかないといけないと思っています。畑のやり方も知らないし、テレビやパソコンの中のできごとでしか知らない昔のことで私が経験してきたこともたくさんあります。そういったことを伝えていくこと、畑については体感してもらうことが大切かなと思っています。そしてそれがやりがいになっています。

ほっとステイは、家庭菜園とかで畑をやっているような方も受け入れが可能です。受け入れてみると、とても楽しいです。子育ての間とかに少し畑を始めてみて、受け入れてみるのもよいと思います

伝えなきゃいけないことが
私たちにはたくさんある



両角 賢一さん 希美枝さん

私たちのところでは、時期によってさまざまな体験をしてもらっています。収穫の時期に来た子たちには、そこで採ったものや旬のものを食べてもらいたいと思っています。山盛りのトマトを出したりすると、「おいしい！」と言ってよく食べてくれてすぐになくなるので、それを見たらうれしくなります。

また茅野市のことも宣伝したいと思っています、寒天ゼリーを出して寒天の紹介をしたり、国宝「土偶」縄文のビーナスや仮面の女神の紹介もしています。棒寒天は見たことが無いみたいで、そういったことで話が盛り上がりたりしています。受け入れの準備は大変な時もありますが、帰ってからは楽しかったというも思っています。

子どもとふれあうことによって、自分も楽しめるということや、地域の美味しい野菜を食べてもらえることが、受け入れる良さだと思います。私たちは孫が来たような感覚でやっていますが、普段の生活を伝える感覚で多くの方に気軽に受け入れてみてほしいと思っています。

孫が来たような感覚
田舎の暮らしや茅野を伝える



阿部 智子さん 北村 連太郎さん

私たちは3年ほど前に、ほっとステイの事務局の方にお世話になっていたことから、声がかかって、受け入れを始めました。コロナ禍になる前の1年にたくさん受け入れて、昨年（令和3年）は2校を受け入れました。

こういう機会が無ければ出会うこともなかった都会の子どもたち。食べられる雑草とかを紹介すると、すごくたくさん採って食べたり、「移住しようかな」と言う子もいたりするのを見るとすごくうれしい気持ちになります。また、インスタグラムをやっている子から、自分たちのアカウントをフォローしてもらえたりもします。

事務局の方も農作業ではなくコミュニケーションがメインだと言っているの、農家に限らず、農村体験をさせてあげられるような可能性がある方には受け入れてみてほしいと思っています。せっかく2010年に立ち上げたすごく良い試みなので、どんどん手を挙げてほしいです。難しいことじゃなくて楽しいことの方が大きいと思いますので。

こういう機会がなければ
出会うこともなかった

ここにできたつながら
それをもとに
また訪れてほしい

ほっとステイに訪れた子どもたちが「また来るね」「茅野市いいところだね」と言ってくれていく子どもたちもいるとか。実際に受け入れをしている方たちから、受け入れた時の様子やどんな気持ちで受け入れているのかをお聞きしました。

ほっとステイちのでは受け入れ農家の募集をしています



- 【対 象】 野菜を作っている農家の方（自家用野菜だけでも可）
茅野市または原村在住の方
【応募方法】 電話またはメールでお申し込みください。
【応募先・問い合わせ】 ほっとステイちの ☎0266-77-3780
Eメール hotstay-chino@live.jp



ほっとステイちの代表
湯田坂 一夫さん

多くの市民の方に受け入れ農家になってほしいと思っています。自家用野菜を作っているだけの方も大歓迎！興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

参加者の声

千葉県市川市立柏井小学校5年生の皆さん

Q 畑で作業をしてみてどうでしたか？

楽しかったです。フォークみたいな道具を使ったり、今までやったことが無かったことがたくさん体験できたので良かったです。

Q 茅野市に来てみてどうでしたか？

とても自然がたくさん！茅野市に初めて来て、市川市にはない大自然がいっぱいでした！こんな体験がまたのぞまた来たいと思いました。

